

令和5年度 第2回白馬高等学校学校運営協議会 議事録（概要）

1 日時 令和5年（2023年）7月16日（日）13時00分～15時00分

2 場所 白馬高校パソコン教室

3 出席者 委員11名（欠席 草本委員、富原委員、出口委員）

その他、

長野県教育委員会高校教育課

中島秀明主幹指導主事

有坂清明主任指導主事

白馬村副村長、同教育課長

小谷村副村長、同教育課長

白馬山麓事務組合白馬高校支援係

局長補佐、主査、白馬高校魅力化コーディネーター

白馬高等学校教頭、事務長



4 次第

(1) 開会の言葉（藤森要白馬高校教頭）

(2) 長野県教育委員会挨拶（中島秀明高校教育課主幹指導主事）

○両村におかれましては、白馬高校のために日頃から厚いご支援ありがとうございます。午前中、しろま祭を見せていただきました。生徒のみなさんの生き生きした姿や地域のみなさんが楽しそうに歩いておられる姿を見て、白馬高校が地域の皆様から愛されている学校だということを感じました。5月28日に銀座NAGANOで行われた学校説明会には教育委員会を代表して担当が参加させていただきました。今後とも力を合わせて取り組んでいきたいと考えています。

○現在、県では特色ある県立高校づくり懇談会を立ち上げ、今年度中に5回の会議を予定しています。第1回の議事録が県のホームページに掲載されていますのでご覧ください。第2回は8月9日（水）に松本市で開催され、それに続く第3回では県境の学校のあり方についても取り上げられる予定です。ここでの議論にも注目していただきたいと思います。

○本日の会では、生徒の皆さんとの意見交換会も予定されているので、大変楽しみにしています。

(3) 校長挨拶（関正浩白馬高等学校長）

○本日はお休みのところお集まりいただきありがとうございます。前回の協議会で草本委員から、生徒の生の声を聞いてみたいという提案がありましたので、今日は、代表の生徒たちと意見交換をしていただくことにしました。

○文化祭という非日常の風景ではありますが、生徒の様子を見ていただけたものと思いますので、後で感想など聞かせていただければ幸いです。来場者数は800人くらいと聞いています。コロナ禍前には1000人を超えたこともありますが、この来場者数は学校（生徒数）の規模からすると多い方であり、地域の方が本校に関心を寄せていただいていることが分かります。

○生徒の様子とともに本校の老朽化した施設設備についてもご覧いただき、本校がいかにバリアフリーと無縁な建物であるか実感していただけたと思います。校舎全体の色合いとか質感とか、そこで学ぶ生徒の感性に訴える部分としての校舎のあり方は重要です。新しい学びの空間づくりについては、統合新校でその取り組みが進められていますが、既存の高校でも、これから生徒急減期に向けて、学校の魅力化の一環として検討してほしいと考えています。

○この後学校からの報告をさせていただきますが、その中で「スクールミッション（期待される社会的役割）」の原案についても提示させていただきます。すでに公表している「三つの方針」の土台となる部分になりますので、いろいろな角度からご意見をいただきたいと思います。

(4) 報告事項

*学校より現状報告<関校長>

○（資料6、7ページ）毎年新入生にアンケートを取り、入学前の印象、入学理由、現在不安に感じていることなどを調査しています。結果を見ると、情報発信の成果で、学校の特色ある学びについ

ては、ある程度みな理解してくれているようです。入学前に本校に対してマイナスのイメージをもっていた生徒もいますが、そういう生徒から実際に話を聞いてみると、入学前は怖い先輩がいそうだと思っていたけれど、実際はみんな明るくて優しい人ばかりだと話してくれます。中学校の生徒や先生方に、こうした生徒の生の声をしっかり伝えていくことが大切だと思っています。

- (資料8ページ)7月28日に体験入学を計画していますが、昨年より20名くらい多い生徒が来てくれる予定です。小谷・白馬両中学校からの人数も増えていきますし、県内他地区も増えて、幅広く関心が広がっているようです。県外からは20名ほどの参加申し込みがあります。このうち10名がスキー部に関心を持っているので、ぜひ入学してスキー部で活躍して欲しいと思います。
- スクールミッションの原案を別紙にお示ししてあります。原案は5行にわたって書いてありますが、もう少し精選したいと思っています。文言や考え方の方向性についてご意見があればお願いします。

<白戸会長>

- このあと質問・ご意見をいただきたいと思います。特にスクールミッションについては、全員のご意見をいただきたいと思います。

<武田委員>

- しろうま祭を見て、すごく子どもたちが伸び伸びとやっているなあと感じた。中学生も親と一緒に来ていて、親御さんにも白馬高校の良さを理解してもらえると嬉しいです。ミッションはこれがいいと思います。地域に溶け込んで一緒に学んで行くというのがいいと思います。

<相沢委員>

- ミッションはこの文章でいいと思います。文化祭は子どもさんの来場者が多いなという印象です。この子たちが将来白馬高校に入学してくれば、学校も地域もさらに活性化していくのではないかと思います。

<笹川委員>

- 本年度PTA会長をやらせていただいています。スクールミッションの文言についてはこの通りかなと思います。これに加えて地域が動くような仕組みや声掛けをやっていけば必ずいいものになると思います。

<太田委員>

- (ミッションについて)役割というところはこれで作られていると思う。これを地域の皆さんがどれだけ理解していただけるかが課題。マイナスのことはどんどん広がるが、いいことはなかなか広まらないのが悩みの種。

<柴田委員>

- ミッションは原案でよろしいかと思います。しろうま祭に来て小谷の中学生や保護者とも出会い、その関心の高さを感じました。小学生6年生の孫もいるが、白馬高校への進学も視野に入れておきたい。いまはチアリーディングをやっているので関連する部活があればいい。

<中村義明委員>

- 「教育プログラムは学校とコンソーシアムが協働して構築する」というふうにしなないと分かりにくいのではないかと思います。内容的にはいいけれど。

<白戸議長>

- 「持続可能なまちづくりの実現に貢献することがミッションで、そのためにこのプログラムがある」という書き方もありかと思うのでご検討願えたらと思います。

<丸山委員>

- 私もしろうま祭を見せていただいて、暑い中でも活気ある活動をされていて嬉しく思ったところです。ミッションの文章も、言葉としては「協働」「地域資源」「国際的な視野」「未来の創造」「チャレンジ精神」「持続可能なまちづくり」などがちりばめられていていいと思う。持続可能なまちづくりはSDGsのことだと思うがもう少し掘り下げて「環境」というキーワードも入れていいのではないかと思います。さまざまな活動を行っていくなかで、これらに紐づいていることを見せられればいいので、ことあるごとにこのミッションを出して、これを元にやっているんだと示すことで良い指針になるのではないかと思います。

<中村和彦委員>

- 概ねミッションはこれでいいかなと思う。中学校の学校方針と狙っている所が似ていて良いと思いました。子どもや特に中学校教員がこれをどう理解するかが大事だと思うので、3つの方針の(2)「本校にしかない教科や科目」はどれだけ魅力的なものなのか、「対話を多用」というのはどういう姿が見られるのか、振り返り改善の「多様な視点」というのはどのような視点なのか、などの点

が具体的に生徒の姿として見ると中学校の教師も進路指導しやすくなると思います。

<松澤委員>

○PTAの地域展で卒業生のメッセージを展示していただいた。募集活動の中で、卒業生が今どんなことをしているかとか、高校時代をどう頑張ったかが聞かれることが多い。白馬高校の魅力など多様なメッセージが寄せられているので、それを募集活動に活用して行きたいと考えています。

*事務組合より現状報告<松澤局長>

○全国募集活動の状況を報告します。大阪府公立中学校協会元会長の前田さんに紹介していただき、校長会理事会の代表理事81名に資料を配布したのち、7月3日に残りの378校に資料を郵送しました。ここ3年ほど関西からの入学生がいないことから、これまで生徒を送ってくれた中学校14校にも訪問して学校紹介を行いました。自然環境の豊かな所で学ぶことに少しでも魅力を感じる生徒がいれば紹介して欲しいとお願いしています。

○独自の学校説明会は両村長にも来ていただき銀座NAGANOで実施しています。前回の説明会では参加者のうち3名が白馬高校を第1希望としているという話でした。また、小谷白馬の姉妹都市にある中学校も訪問し、さらにスキー部の募集ということで静岡県や岐阜県にも行ってきました。この他にも愛知県の中学校訪問を考えています。

○地域みらい留学の合同説明会は6月、7月、8月がオンライン、9月には東京会場で対面の説明を行います。

○資料11ページからは、新寮生16人のアンケート結果です。白馬高校を選んだ理由としては、スキー・スノーボードに次いで英語が2番目に多い。寮生活については充実しているというのが大半ですが、寮の昼弁当が冷たいとか揚げ物が多いとかの声もあるので改善していきたいと思います。

<白戸議長>

○今の説明に対する質問、ご意見ございますか。

<丸山委員>

○志望理由に英語が多かったという話だが、現在は授業が十分にやれているのか？

<関校長>

○コロナ禍では大変な時期もあったが、昨年から徐々に戻りつつあり、今年度はコロナ以前にやっていたプログラムは全部できる状況になりました。授業もできるだけ対話を重視した授業構成にし、アシスタントの外国人教員にもできるだけ多くの授業に関わっていただくようお願いしています。丸山村長さんにも関わっていただいていた、英語ガイド実習もこれからありますし、3月には短期の海外語学研修を実施予定です。それに合わせて英語検定の受験も強く推奨しています。

<丸山委員>

○月に1回くらいの村内在住の外国人を招いた授業というのは今もやっていますか？

<関校長>

○それは、まだやれていません。

<丸山委員>

○村内在住の外国人に限らないですが、当事者意識を持っていただいて、両村の住民の方たちが一緒に応援しているという空気が醸されればいいかなと思います。

<関校長>

○ありがとうございます。

<白戸議長>

○他にありませんか。このあと、生徒さんが来てくれる予定です。事前に委員さんの質問に回答をいただいていますので、資料にお目を通しておいてください。しばらく休憩といたします。

(5) 生徒との意見交換

<白戸議長>

○では、質問があればお出してください。

<丸山委員>

○白馬村長の丸山です。刃物さんの回答に「(しろま祭で)飲食物の販売ができない」とありますがどのような状態になっているのですか。

<刃物さん>

- 調理ができないということです。袋に入ったものを売ることはできます。
- <丸山委員>
- 3年間ずっとそんな感じですか。
- <剣物さん>
- そうです。
- <丸山委員>
- バッティングセンターの催しをやっているそうだけれどどういうふうに決まったのですか。
- <剣物さん>
- 授業で野球をやっていて面白そうだということになったのです。
- <丸山委員>
- ありがとうございました。ちょうどその横を通りかかって、楽しそうに見えました。
- <笹川委員>
- 質問攻めにしそうですが、笹川といいます。前田さんに質問ですが、ここがダメというところに「教室が少ない」と挙げられています、具体的にはどういうことですか。
- <前田さん>
- 国語の授業を音楽室でやっていたり、被服書道室というのがありますが、家庭科の被服室と書道室が一緒になっています。「白馬高校は教室が少ない」と先生方も言っておられました。
- <笹川委員>
- ありがとうございます。
- <関校長>
- 今の話を補足しますと、クラス数に応じた授業をしていれば教室は足りているのですが、本校では、習熟度別にしてクラス数を超える授業展開をしていたり、時間割の関係で選択科目が同じ時間帯に重なったりするため、同じ時間帯に使える教室が不足し、緊急避難的に音楽室を使うということになっているわけです。音楽室といっても普通に机があり、黒板もあるので、授業はできます。とはいえ、私の立場からすればもっと教室を増やして欲しいです。探究学習の時間でテーマ別に生徒が集まってワイワイと探究活動をするには、小さい部屋がたくさんあることが理想です。
- <白戸議長>
- では、私から前田さんに質問ですが、「SNS でバズルとすれば」の所で、「白馬の全景が見える窓」とありますが、教室から山は見えないのですか。
- <前田さん>
- そうですね。僕は白馬中学校卒ですが、白馬中ではどの教室からも山が見えました。この学校では教室からは見えず、三階の階段を上がった踊り場で見えますが、校舎内から見るところはあまりありません。綺麗な山が見えるようになればいいなと思います。
- <白戸議長>
- 非常にいい意見ですね。
- <太田委員>
- 飲食店が文化祭で出せないのは、食品衛生法の関係もあるように思います。白馬村スキークラブでは露天商の資格を取っているのです、そういう団体に声をかけて文化祭でやれば、内容の幅がまた一つ広がるのではないかと思います。
- <白戸議長>
- 学校だけでできないことも住民の力を借りてやれることもあるという話だと思えます。
- <丸山委員>
- 全体的にみると改善してほしいことは、1番は施設面の老朽化で、2番目は部活を多くしてほしいこと、次の3つ目は何ですか。
- <前田さん>
- 電車やバスで学校に通う人から聞くと、本数が少なく登下校の時間が制限されて不便なので、バスや電車の本数を増やして欲しい。
- <中村義明委員>
- どうしたら、多くの生徒が白馬高校に来るようになるかという質問のところで、二人とも部活のことをあげていますが、スキーだけでなく具体的にどんな部活があればいいと思いますか。
- <前田さん>
- 僕は吹奏楽部ですが、僕が高校を選ぶときに部活を重視していたので、他の中学生ももっと部活が

- 盛んで高いレベルだったらいいかなと思います。
- <中村義明委員>
- 吹奏楽部だそうです。吹奏楽部はレベル的にはどうですか？
- <前田さん>
- 3、4年前よりは盛んになっていると思います。
- <関校長>
- コンクールでは金・銀・銅とありますが、今は銀の上の方です。
- <中村義明委員>
- 吹奏楽部は地元の人たちとも結構交流してくれていますね。剣物さんはどうですか？
- <剣物さん>
- 僕自身は部活をやっていませんが、球技とか増やしたらいいと思います。
- <中村義明委員>
- 球技系の部活動があれば、生徒は入りますか。
- <剣物さん>
- 入ると思います。
- <相沢委員>
- 白馬の魅力とか中学生にはどんな感じで具体的に伝えたらいいですか。
- <山田さん>
- 美しい白馬三山の真下にあって、授業で白馬の自然に触れることができることを伝えたらいいと思います。
- <前田さん>
- 生徒数が少ない分、生徒一人一人をよく見てくれることと、自分は地元出身なので通学が楽で、習い事ができる点も魅力です。
- <剣物さん>
- 全国的にも珍しい国際観光科があること。全国から生徒が来るのでそれも魅力です。
- <林さん>
- 私は白馬に住んでいますが、自分の知らない白馬を知ることができるのがいいと思います。県外生にも白馬の自然とか、人の良さとかを知ってもらいたいです。
- <荒井さん>
- 地域密着型の学校で、地域から提案や応援がいっぱいあって、わくわくするので、白馬でなければできない経験をさせてもらっていると思います。
- <田原さん>
- 登山やスキーや自然にかかわる行事がいっぱいあることと、村全体が白馬高校を盛り上げてくれたり、応援してくれたりするイベントが沢山あることがいいと思います。
- <太田委員>
- 地元の住民としては、第2のふるさとだと思ってくれたら嬉しいなと思いますが、どうすれば愛着をもってもらえると思いますか。
- <田原さん>
- 白馬は人が優しくいい人ばかりなので、人のよさを伝えていく。あと、山とか川とか自然がたくさんあるので、釣りなどのアクティビティやスポーツとかを発信していくといいと思います。
- <荒井さん>
- 私はここでかなり積極的になれたと思っていて、その理由は、白馬村の皆さんは大人でも子どもでも積極的にその刺激を受けたからだと思います。私は寮生ですが、進学で白馬を出て行ったとしても、白馬村で成長させてもらった人間としてまた戻って来て、皆さんと関わられたらいいなと思っています。
- <林さん>
- 私は、人との繋がりが大事だと思っていて、イベントとかで出会った地域の大人の方とか凄い人に刺激をもらっています。その学びを次にどこかに持って行って実践して、でもやっぱり恋しくなって戻って来た時に、ああやっぱりここがふるさとだなと思える、そんな場所だと思います。
- <山田さん>
- 地域との関わりがいい。生まれた時から白馬村ですが、とてもいい人たちに囲まれています。
- <笹川委員>

○荒井さんに質問です。国際観光科ですよ。 「もう一度高校生ホテルをするとしたら、どんな風にしたいか」という問いに、「食事が欲しい」と回答されているのは、忙しくて食事の時間がなかったという意味ですか。

<荒井さん>

○いいえ、いろいろなホテルの食事を単に食べたいなあということです。

○メインは部屋の掃除やベッドメイキングや受付だったのですが、食事を作るとか、白馬高校の中にも興味を持つ子がいるので、もっと裏方の仕事も知りたかったです。

<笹川委員>

○劔物さんも国際観光科ですが、どうでしたか。

<劔物さん>

○実際の仕事内容を、朝早くから、全体で一週間くらい体験してみたいと思いました。

<白戸議長>

○高校生からも、質問とか意見を出してください。

<荒井さん>

○トイレとか廊下や壁の設備が老朽化しているので、新しい人を呼び寄せるにはきちっとした整った設備で迎えてあげることが一番だと思います。私たちが快適に過ごすためにも、設備面での支援が必要だと思う。トイレも特に女子トイレは流れにくいのです。

<前田さん>

○男子トイレも流れないことがあります。

<中島主幹指導主事>

○貴重なご意見ありがとうございます。県教育委員会としてもできることをしていきたいと思っています。

<武田委員>

○これだけ白馬村のことを生徒の皆さんが考え、地域の人と関わりを感じていただけているということを知ってうれしいです。中学生には皆さん自身の声と言葉で伝えてくれた方が伝わると思います。荒井さんのまた戻って来たいという言葉が嬉しくて、一緒に仕事ができる村をみんなで作りたと思います。会う人会う人にどんどん伝えて欲しい。またそういう白馬小谷に限らず大町や美麻の小中学生と交流できる場も作っていききたい。とてもいい意見が聞いてよかったです。

<柴田委員>

○「白馬高校で今後変えてほしいところは何か」という問いの荒井さんの回答に「だらだらしたところを直す」とありますが、具体的にどういうことでしょうか。

<荒井さん>

○私たちは将来的な進路や白馬にしかない学びを求めて来ているわけですが、例えばテスト期間の時とか、予定が出るのが遅くスケジュールがたてられなくて、時間をうまく使えなくなっていることがあるということです。

<柴田委員>

○皆さんは今後白馬小谷に戻ってきてくれますか。

<山田さん>

○自分は戻ってこないけど、仕事が落ち着いてきて次何しようかというようなときは戻るという選択肢もあるかもしれません。

<前田さん>

○自分は将来吹奏楽を教えたくて、できれば白馬中で音楽を教えたいです。

<劔物さん>

○僕には家業があるので、それをやるつもりです。

<林さん>

○ここに留まらずに一度外に出て学びたいと思っていますが、また戻ってきて、お世話になった白馬に貢献できればいいなと思っています。

<荒井さん>

○自分にとって自然がいっぱいあり、少人数で伸び伸び過ごせる最高の環境にあるのに、知ってもらえていないのが残念。教育でも「白馬ブランド」を打ち出していければ魅力的だと思うし、私も戻ってきて仕事をしたいと思っています。

<田原さん>

○一度は村を出て学んで、小谷に戻ってきます。小谷には「ザ・車屋さん」というものが少ないので、車関係の技術を磨いて車屋さんをしたいと思います。

<白戸議長>

○今日は忙しい中ありがとうございました。松本大学の学生でもこの地域から来ている生徒は多くが戻っているように思う。白馬小谷はこれくらいの人数だから、人間関係ができやすく、若い元気な人が多いので、客観的に見ても東京なんかと遜色ないくらいいろんなチャンスがある地域だと思う。もし将来こっちに帰ってきたら、ここにいるのはみんなと仲間になる人たちばかりだから、心強く思ってください。ありがとうございました。

(拍手) 高校生退場

<白戸議長>

○今日の生徒たちの素晴らしい意見を受けて、特に学校のアピールについて具体化できることがあればいいと思いますが、自由に発言してください。

<丸山委員>

○建物・設備の要望に関しては一番出てくるものなので、県の方でも積極的に考えてもらいたいと思います。カリキュラムに関しては現場でよく頑張ってもらっていると改めて感じました。部活に関して、両村にこんなことができないかとか意見があればお聞かせください。

<関校長>

○ありがとうございます。先生方の働き方改革を考慮しながら部活のあり方を検討しています。地域移行については中学校で進んでいますが、高校は通学範囲が広いので難しいところがあります。支援係が公営塾で個々の生徒の活動の支援もしてくれています。部活動というと大人数の生徒が集まって何かやるということになりますが、小規模校では難しい部分もあります。先ほど刃物さんが球技をやったらいいと言っていました、今男子バスケットボール部が部員がいなくなって同好会扱いになっています。一方、1年生からバレーボール部をやりたいという声が上がって、今同好会が発足して活動が始まったところです。ただし、職員数も限られていて顧問を増やせないのが悩みです。柱となるスキー部は顧問3人いますが、冬は遠征が続くので大変な状況です。県から部活動支援員の予算をいただいています、その部活動支援員を長野県でもっと増やして欲しいと思います。

<中村義明委員>

○野球部に関しては中信連合というのが。社会体育としてソフトボールや野球を社会人と混じってやることに制約はあるのかどうか聞きたい。

<関校長>

○個々の生徒が参加するのは問題ない。しかしながら、高校生が求めているのは、学校で高体連に所属して他の高校生と大会で対戦したいという思いなのですね。

<中村義明委員>

○そういう意味では大町岳陽高校と一緒にやることはできるのか。

<関校長>

○両校で話がつけば合同チームとしてできます。場所と時間の制約がありますが。

<白戸議長>

○私も大学の野球部長をやっているが、公式戦に出るには部員一人でも顧問がいて監督がいれば出れるが、問題は生徒一人では体力トレーニングが出来ても、守備練習とかできない。そういう所は地域の社会人の活動に参加して練習するとか、中学校の部活にサポーターとして入るのもありかなと思う。高野連の資格をクリアすればなんとかなるので、やりようかなと思います。

<柴田委員>

○3つの方針の(3)の②にある「地域のコミュニティ」とは授業ではどんなことをやられているのですか。

<関校長>

○白馬小谷という地域だけでなく、他府県の生徒にとっては自分の地元の地域のコミュニティという意味で、授業では環境や観光で白馬小谷の地域にお世話になったりしながら、地域を意識する場面を用意しています。

<白戸議長>

○ここの概念はよく言われる「シンキング・グローバリー、アクティング・ローカリー」ということ

ですね。

<柴田委員>

○せっかくですので、白馬小谷の集落をぜひ使ってください。

<白戸議長>

○募集活動について生徒の話にあったのですが、彼らの思いを直接伝えられないのか？

<関校長>

○21日に白馬中学校に説明に行くときに生徒5名ほどを連れて行きます。直接知っている先輩からの話にはやはり影響力があります。県内のある高校で生徒が自発的に「学校のことをお知らせし隊」を作ってアピールしているという話がありましたが、白馬高校でもインターアクト部の生徒が自分たちで学校のコマーシャルをしたいと言ってくれていますので、そうした生徒の力を借りながらアピールしたいと考えています。

<白戸議長>

○中学も高校も大学もそうだが、自分が入ったときの具体的なイメージが持てるかどうかが入学の決め手になるので、ぜひ進めていただければと思います。

<丸山委員>

○皆さん学校のPRムービーは見られましたか。学校説明会ではよく流していただいていたので、それに短い生徒のウェルカムメッセージもあって非常にいいですね。

<白戸議長>

○うちの大学でも「先輩と語ろう」というコーナーが人気で、直接先輩と話ができるのがいいので参考にさせていただけたらと思います。

<松澤委員>

○みらい留学で入って来た4人に聞いても進学の手には先輩の声が大きかったと言っています。8月、9月の説明会にも生徒を連れて行きたいと思っています。あと、TicTokの短時間動画も製作中で、生徒の方でも発信する計画があります。

<中島主幹指導主事>

○今日は高校生の話も聞くことができ非常に有意義でした。気がついたところをお話します。

○スクールミッションですが、これは地域と一緒に協力して作ることが大事なのですが、まさに今日の会議はそうなっていました。白馬村長がおっしゃったようにSDGsの考え方やSociety5.0の諸課題も入ってくると分かりやすく見やすくなると思います。

○教育課程編成の所では本校にしかない教科科目、多様な視点からの学習を含めた学び方や、教科横断の授業も白馬高校では始まっているようですが、そういうことが、子どもたちにとっても、中学校にとっても魅力につながるのではないかと思います。

○高校生には本当に多くの可能性があふれていると思います。今日話をしてくれた生徒はまた白馬に戻ってくると言っていましたが、大人が制限をかけたり、学びを強いたりするのではなく、のびのびと生きていくことが大事です。どこに出かけても少子化なので地域を担って欲しいと言われますが、実は「地域を担う」と言うのは大人の考え方で、「地域を作っていく」というのがいいのではないかと思います。

○最近勉強したことですが、五感を通じた原体験が大事だということ。ここ白馬高校は自然に恵まれ、村の人たちとの繋がりが深い、他にはない地域です。高校時代やそれまでに五感を通じた原体験があれば、人生の分岐点では、また村に戻って来たいと言う思いが湧いてくるのではないのでしょうか。

○教育課程については、国際観光科では25単位の専門科目が必要で、その内容は学校で特色が出るように組んでいただいています。単位制や教科横断型授業も含めて考えてもらって、白馬高校には英語を勉強したいと入学してくる生徒も多いそうなので、地域の外国人の応援も得て特色あるカリキュラムにさせていただけるといいですね。

○トイレ等の改修などは全県的な視野に立ってなされていますが、こういう話があったということは持ち帰って伝えておきます。

<白戸議長>

○ありがとうございました。それでは本日は以上となります。進行を事務局にお返しいたします。

<藤森教頭>

○長時間ご協力ありがとうございました。生徒にとってもよい機会になったと思いますので今後もこのような対話の機会を設けたいと思います。

- 今後の予定ですが、第3回を11月6日（月）に、第4回を2月13日（火）に開催したいと考えております。ご予定の調整をお願いします。
- 以上を持ちまして第2回運営協議会を終了させていただきます。ありがとうございました。

(7) 閉会